

認定 NPO 法人 行徳野鳥観察舎友の会 会報 第 2 2 3 号

すずがも通信

2017

4月

2017 年 4 月 9 日 発行

ISSN 2185 632X



「メジロ」撮影&提供 山本俊信

保護区作業

～〇〇してました！～

野鳥病院日誌

～動物病院に近づく??～

3つの秘密組織!?

植物班・虫班・キ/コ班

一年間の集大成！報告会開催

ビックニュースも！／フィールドミュージアム

保護区の鳥の様子／友の会あいさつ

☆1～2月の保護区作業～〇〇してました～☆

～三島池汽水化実験中～



三島池は湊池棚田や浄化池など本土部北側エリアの最下流部の淡水池でした。名前の通り昔は島が3つあったそうです。外来種が多く植物に覆われがちだった環境を改善するため、海水を導入し多様な生物の利用する汽水環境にするべく、茨城大学の加納光樹さんらと共同で2012年から汽水湿地化の実験を行っています。

当初は海側の水路を掘り下げ、池内部への※滞筋(みおすじ)を手掘りしましたが、想定より地盤が高く海水の遡上が少ないこと、滞筋も泥で徐々に埋まるなど思うようにいきませんでした。そこで今冬は重機を使い水路や池を拡張し水の流れをダイナミックに、さらに上流側まで海水が上がるよう水路を掘る事になりました。三島池内へ重機を入れるのは初めてで、作業用に出入りする水を止めてからも足場がかなり不安でしたが、幸いにも1～2月に降雨がほとんどなく予定通り作業を行うことができました。現在は常時潮の干満に合わせ海水が出入りするようになり、干潮時には水の溜まった水路内に小魚の群れが入っていたりしています。今後も手を加えていく予定でより多くの生物の住処となることを期待しています。

(野長瀬 雅樹)(山口 誠)

写真は上から

2012年1月・実験作業前の三島池

2012年3月・海側水路を掘り下げ海水が入るよう水路を掘った所

2017年2月・今季の重機作業とその後の池の様子。(池・水路が大きくなる)

※滞筋

川や海の中で船の通れる水路となっている深み。

野鳥病院日誌

2017 年 1 月～2 月版 第 2 号 担当：大淵真紀

今号の野鳥病院日誌を担当する非常勤獣医師の大淵真紀です。

精鋭のスタッフに支えられ、野鳥の生態にも触れることができ、貴重な時間を過ごしています。まずは最近の野鳥病院と禽舎の状況をご報告します。

野鳥救護施設のエキスパート、元インターンのUさんのアドバイスで大部屋（海鳥などの入院室）の敷材のおがくずを廃止して人工芝にしました。例年の呼吸器疾患が見受けられなくなりました。新しい顕微鏡、中古の保育器の導入をし（寄付によるもの）診断や治療に役に立っています。投薬については一般の動物病院に近づいてきました。しかし、まだまだ改善しなければいけないことが山積みです。

野鳥病院では鳥インフルエンザの警戒の影響で入院の制限を継続しており、ご迷惑をおかけしています。治療室では違法飼育で管理中のキビタキがぐぜりはじめ、春を感じてきました。鳥インフルエンザの収束もそう遠くないことでしょう。そんな中、片脚・片翼を負傷したヒヨドリがご入院。手術にも耐え、片脚でしっかり止まり木に捕まり、大好きなミカンも、他の食餌もしっかり食べます。偉い！終生飼養の人気者のフクロウの黒い個体。残念ながら栄養不良でお亡くなりになりました。現状の給餌では太ることはできても、栄養学的に問題が生じる個体が出ることも。制約の多い中で改善・改良できることを模索しています。

平成 29 年度の見通し～休館以来 2 回目の春～

観察舎をめぐる動きのなかでも、いくつか公開されたことがあります。

観察舎に耐震面での問題があり、このまま使うことはできないこと、千葉県は「廃止」する方向であることは、すでにお知らせしました。

平成 29 年度は、県は観察舎を解体するための設計をするとのこと。耐震基準を下回ったとはいえ、地盤の良くない所に建てられた 3 階建ての大きな建造物は、解体にも私たちが考えていたよりずっと手間のかかるものようです。

解体工事は、さらにその後になります。

いっぽう、その後の施設等のことは、まだ県と市との協議中です。ゴールが遠のいたようにも見えますが、自然保護の拠点を行徳の地から消滅させないための時間をもらえたとも言えるように思います。

友の会は、今年度も様々な事業を行っていきます。観察舎休館のあおりで利用が減っていた学校の授業にも使っていただくための PR や、短時間でお手軽に参加できるミニガイドの実施など、新たな試みも始めました。どうぞ、春風香る行徳へお越しください。

（清水 大悟）

◎植物班・(昆)虫班・キノコ班◎

保護区内の生き物の調査活動をする3つの班。保護区にどんな種類の植物・虫・キノコが生息しているのかを地道に調べつつ発信していきます。会員や有志の皆さんが多く活動に参加して下さいます。皆さんも一緒に活動してみませんか？

植物班

「春が来た、春が来た！」保護区の足元には春が一杯 (メンバーSさん)



ムラサキサギゴケ
シソ目ハエドクソウ科



ヒメオドリコソウ
シソ目シソ科

(昆) 虫班



ヤブニッケイ



クロモンキノメイガ

12月～2月の保護区内は例年であればマエアカスカシノメイガに1～2回は出会うのだが、今シーズンは観察会を含め一度も発見できず、その代わりとってはなんですがクロモンキノメイガは良く見られた。今冬は真冬からクワゴマダラヒトリの越冬幼虫が良く目につきマサキの葉やクロダモの葉まで食用としていることが分かった。

(メンバーFさん)

(※クロダモ=ヤブニッケイ)

キノコ班



チャワンタケ

キノコ班、第1回会議と調査を行いました。観察会は6～7月と9～10月の計2回を予定しています。調査は、保護区本土が乾燥していて、目当てのアミガサタケは残念ながら見られず、カワラタケ類やサルノコシカケ類などの「乾きモノ系」がまだまだ全盛。その中で、かわいいチャワンタケ類を1つ見つけました！

(メンバーNさん)

1~2月 保護区の鳥の様子

川上 正敬

2017年1月から2月の保護区鳥類調査の結果です。この二ヶ月で57種を記録しました。昨年11月頃に種数も個体数もピークを迎え賑やかな年末でしたが、徐々に減って保護区は落ち着いた雰囲気に包まれました。

カワウの繁殖開始が例年より一ヶ月ほど遅く巣の数も比較的少ないです。カモ科でこの時期最も多かったホシハジロは、よく北池に100羽ほど群れていましたが、1月中旬にほとんどいなくなりました。いつもいるようなヒヨドリにも季節変化があり1月中旬以降減少しました。北池のアオサギの繁殖開始は例年2月中旬頃でしたが、まだ始まっていません。2月中旬からウグイスのさえずりが本格的に聞こえるようになりました。

水鳥類

オカヨシガモ
マガモ
カルガモ
オナガガモ
コガモ
ホシハジロ
キンクロハジロ
スズガモ
ウミアイサ
カイツブリ
カンムリカイツブリ
ハジロカイツブリ
カワウ
ゴイサギ
アオサギ
ダイサギ
コサギ
クイナ
バン
オオバン
タシギ
イソシギ
ユリカモメ
セグロカモメ

猛禽類

ミサゴ
トビ
チュウヒ
ハイタカ
オオタカ
ノスリ

その他小鳥など

キジバト
カワセミ
コゲラ
モズ
オナガ
ハシボソガラス
ハシブトガラス
シジュウカラ
ヒヨドリ
ウグイス
メジロ
ムクドリ
シロハラ
アカハラ
ツグミ
ジョウビタキ
スズメ
ハクセキレイ
セグロセキレイ
カワラヒワ
ベニマシコ
ウソ
シメ
ホオジロ
アオジ
オオジュリン
ドバト

ニュース

【ヒクイナの初越冬！】



ヒクイナの観察例はごく稀にありましたが、越冬は初めてのこと。 撮影 Mさん

【オオハシシギの長期滞在】



しばらくぶりで、保護区で越冬してくれたオオハシシギ。

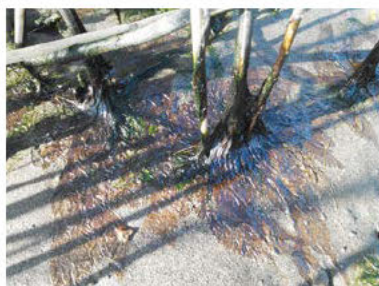
来年も期待してます！ 撮影 Yさん

イベント報告

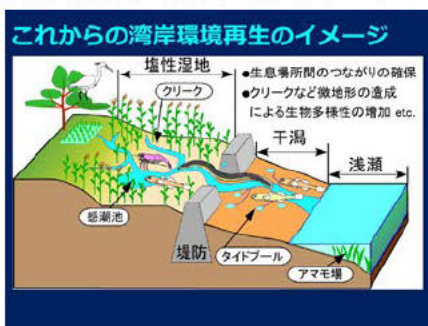
楽しく学べる!

行徳生物多様性 フィールドミュージアム

保護区内の生き物を実際に観察しながらプロの先生と一緒に学んでいきます



↑保護区で自生していた海苔
(おそらく養殖に使われるナラウスサビノリ)



改めてフィールドミュージアム活動についてご紹介。

2016年3月5日、行徳公民館にて開催した緊急シンポジウム「行徳鳥獣保護区、フィールドミュージアムとしての潜在力」において、フィールドミュージアム研究会の発足と活動開始を宣言しました。これは保護区の生物多様性や景観、環境そのものを展示・研究資源として、保護区の野外博物館機能を研究・発信していくという任意団体です。

3月11日に行徳公民館にて1年間の活動報告会を行いました。研究会代表の風呂田利夫さんによる活動総括(2016年度は全9回開催、スタッフ含むのべ173名が参加)、江戸前干潟研究学校の年間採集記録(野長瀬)、茨城大加納さんの三島池汽水化実験の進捗、海苔の福田さんによる海苔養殖実験の経過が発表されました。福田さんからは保護区でノリが自生している嬉しいニュースもありました。

2017年度は前年度同様、月1回研究会としての調査イベントを開催し、フィールドミュージアムとしてのプログラム作り活動を進める他、百合ヶ浜の底生生物調査など研究活動も進めていく予定です。

研究会の調査活動やイベント情報をお知らせする
メーリングリスト(月1回程度配信)もあります。

登録希望の方は友の会までアドレスをご連絡下さい。

(研究会事務局担当 野長瀬雅樹)

次回

☆4月23日(日)「町田池環境改善大作戦」☆6月18日(日)「わくわくカニっこ大作戦」
いずれも観察舎玄関前10時集合15時頃解散。

雨天決行当日受付・定員20名・要昼食・参加費50円。

<問い合わせ先> 行徳野鳥観察舎 Tel 047-397-9046

ちょっと一息。。。

やっぱり冬はピラカンサ



カワラヒワ
スズメ目アトリ科
日本では比較的によく見られる種類。
種子を主食としている。

「カワラヒワ」撮影&提供 中込哲

カワラヒワの口元に注目！
嘴が汚れることも気にも留めず
むしゃむしゃ、モグモグ・・・・・・・・
この時期の種子は彼らにとってなくてはならないものですね。

友の会の会員の皆様へ

平素友の会の活動にご理解、ご協力いただきまして誠にありがとうございます。
このたび、ご寄付いただいた方のお名前をすずがも通信にのせるにあたり、
個人情報保護の観点からご希望の方のみ掲載することにいたしました。
つきましてはご寄付いただいた際にお名前の明記の可否をお伺いさせていただき
掲載可の方のみ掲載することになりました。

また、過去のすずがも通信に掲載されていない方で掲載を希望される方は、
大変お手数をおかけいたしますが、友の会にご連絡いただけますようお願い申し上げます。

♪♪イベント案内♪♪

●→雨天中止 ★→荒天中止 ☆→小雨決行

●ボランティアデー(毎月第4土曜)

スタッフと一緒に保護区の管理作業をしてみませんか？



2/25
流木拾い&それを使った杭作り(参加者7名)
3/25
田植えの準備。田んぼに堆肥を運びました。(参加者9名)

〈次回〉4/22(土) 5/27(土) 13時～16時ごろ

集合：行徳野鳥観察舎前

作業内容は未定。お楽しみに！

開催日の3日前～前日に下記連絡先(観察舎)にて

●5/13(土) 愛鳥週間探鳥会(予定)

野鳥を愛する心を忘れずに

参加するとオリジナルバッジがもらえる千葉県主催の観察会です。

集合：行徳野鳥観察舎前(予定)

時間：13時半～15時半(予定)

詳細はお問い合わせください。

●6/10(土) トビハゼ祭り

北限のトビハゼに親しもう

トビハゼ祭り！君もトビハゼ博士になれるかも？

※トビハゼメインの観察会 無料

※オリジナルトビハゼマスコット色塗り ¥100
等々...

集合：行徳野鳥観察舎 10時～15時(予定)

詳細はお問い合わせください。

定例観察会

●定例園内観察会(毎週日曜・祝日)

集合：行徳野鳥観察舎前 13時半／解散 15時半

★定例新浜探鳥会(毎月第2日曜日) 5月14日、6月11日

集合：行徳駅前の広場(改札出て左) 10時 持ち物：昼食、飲み物、帽子

参加費：200円(18歳未満は無料) 「放水路経由コース」は+バス代400円(子供200円)

・「新浜保護区コース」保護区内→観察舎前／解散 13時半

・「放水路経由コース」バスで江戸川放水路まで→保護区内→観察舎前／解散 15時半

◎主催：行徳野鳥観察舎友の会、日本野鳥の会東京支部、千葉県野鳥の会

★夕暮れ観察会(毎月第4土曜日) 4月22日、5月27日、6月24日

集合：行徳野鳥観察舎前 16時半／解散 18時半

●平日観察会(第1木曜日 ※祝日の場合は翌週) 5月12日、6月1日

集合：行徳野鳥観察舎前 10時／解散 12時

●ミニガイド(第1、2、3土曜日) 4月15日、5月6日、5月20日、6月3日、6月10日

集合：行徳野鳥観察舎前 10時／解散 12時 ※観察舎スタッフによるミニガイド

【行事に関する問い合わせ：行徳野鳥観察舎(047-397-9046)】

すずがも通信 No. 223(隔月発行) 2017年4月9日発行 *****

発行所

認定特定非営利活動法人行徳野鳥観察舎友の会

[千葉県行徳野鳥観察舎 〒272-0137 市川市福栄4-22-11 Tel.047-397-9046]

E-mail tomonokai_suzugamo@ybb.ne.jp

URL <http://gyotokubird.wixsite.com/npofgbo>

編集 堀江聡美

印刷 株式会社プリントバック



Twitter



Instagram

年会費

・普通 2000円 ・電子 1000円

・ジュニア(18歳以下)500円

・賛助 3000円以上

・法人・団体 10000円以上